

どう守るか 性の商品化と若年女性の被害

児童ポルノ～AV被害まで

11月11日 **水** 14:00-16:00

会場：フォーラム（男女共同参画センター横浜）
横浜市戸塚区上倉田町435-1（JR/市営地下鉄戸塚駅徒歩5分）

第一部

14:00～14:30

「性の商品化とポルノ被害」

講師：宮本節子（PAPS代表世話人、フリーソーシャルワーカー）

従来、アダルトビデオやポルノは、それを見たい人が見て楽しんでいるだけで、被害者なんて誰もいないと思われていました。だから、楽しんで見ている人もあまりやましい思いを抱くことなく、楽しむことができるのでしょう。ネットでは、“ポルノ”だとか“アダルトビデオ”だとかのキーワードで検索してみると、おびただしい数のポルノサイトを閲覧することができます。

これらの“作品”を制作するためには、生身の女性の身体を必要とします。彼女たちはただ“演技”しているだけなのでしょうが？ そこには何の問題もないのでしょうか？

おびただしく生産・流通しているこれらポルノ製品の消費の過程では、何の問題も生じていないのでしょうか。ネットの中で、あるいは街の中で、ポルノを目にしないことの方が少ない社会に私たちは暮らしています。こんなにポルノが溢れている社会環境から私たちの暮らしはまったく影響を受けていないのでしょうか？

第1部では基本的な視点をもとにして、第2部では実際に対応してきた相談事例をもとにして、一緒に考えます。

第二部

14:30～16:00

「児童ポルノ・AV出演の強要手口と現状

—相談支援の現場から—

講師：金尻カズナ（PAPS相談員・人身取引被害者サポートセンターライトハウス被害者支援チーム）

「かわいいね、トップモデルになれるよ！」「コスプレの服を着て撮影するだけの簡単な仕事だよ」アイドルやモデルになれると思い応募した先では、このような優しい言葉をかけられます。その言葉を信じ、身分証明書を出し、契約書にサインをすると実際の仕事内容はAVの撮影でした…。

加害者は、甘い言葉と脅しの両方を巧妙に使い、若い女性たちを自分たちの支配下におき、性的に搾取しています。誰でも被害にあう可能性があります。知的に障がいがあったり、経済的に困っていたりするなど、加害者側が弱みを握りやすい特徴をもった少女や女性は特に被害に遭いやすい状況下にあります。望まない性行為を強要され、暴力をふるわれ、それが記録物として世に販売、頒布されているのです。

これまで、電話とメールで受けてきた90件のAV被害の相談から、少女、女性たちの性が脅かされている現状をお伝えします。何が問題で、支援者として女性たちをどのように守っていけるのか、一緒に考えます。

お申し込み方法

会場： フォーラム（男女共同参画センター横浜）

対象： 直接子どもや女性の支援に携わっている
支援者

定員： 50名

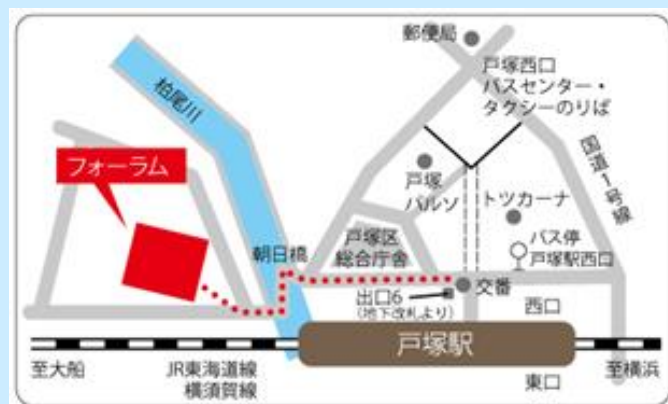
参加費：1,000円

申込方法：事務局までFAX（03-6304-2564）か
メール（paps@paps-jp.org）にお名前、所属、連
絡先を書いてお申し込み下さい。

保育： 1歳6か月～未就学児（予約制・有料）

※経済的に困難な事情がある横浜市在住・在勤・在学の方は保
育料が免除される制度があります。詳細は電話045-862-
5052へお問い合わせください。

この事業は横浜市男女共同参画センターとの協働事業とし
て実施します。



※提供された個人情報、今回の事業実施のみ利用し、その他の目的で
利用することはありません。
※できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

フォーラム（男女共同参画センター横浜）

横浜市戸塚区上倉田町435-1

TEL: 045-862-5052

講師プロフィール

宮本節子（みやもと せつこ）

1943年生まれ。知的障害者、精神障害者、貧困、性暴力被害者を中心対象者とするフリーソーシャルワーカー。単著「地域に拓かれた施設づくり」（全国社会福祉協議会）、共著「証言 現代の性暴力とポルノ被害」（東京都社会福祉協議会）、共著「社会福祉政策とフェミニズム」（ミネルヴァ書房）、共著「森美術館問題と性暴力表現」（不磨書房）、共著「婦人保護施設と売春・貧困・DV問題」（明石書店）、単著「ソーシャルワーカーという仕事」（筑摩書房）

金尻カズナ（かなじり かずな）

もともとはパソコンのシステムエンジニア。2003年より、ポルノ被害の深刻さを社会に訴えるために社会活動を始め、セクシャリティをめぐるさまざまな問題について取り組む。その中で、多くの女性や子どもたち、時には男性ですら、性産業によって心身に深い傷を負いながらも、被害を訴えることができない現実が見えてきた。2009年からはポルノ被害と性暴力を考える会（PAPS）で、2015年からはNPO法人 人身取引被害者サポートセンターライトハウスの被害者支援チーフとして、人身取引被害者の支援活動に従事。

PAPS 【ポルノ被害と性暴力を考える会】 <http://paps-jp.org>

女性であるがゆえにさまざまな性被害を受け、生活困窮に陥った人々の生活再建を支援する福祉施設の有志、およびポルノ被害という新しい概念にもとづいて日本における性被害の問題に取り組んできた運動研究団体に所属する研究者と市民活動家によって構成されている。2009年設立。

代表世話人
宮本節子（フリーソーシャルワーカー）
森田成也（ポルノ・買春問題研究会）
湯澤直美（立教大学）
横田千代子（全国婦人保護施設等連絡協議会）

企画実施：PAPS（ポルノ被害と性暴力を考える会）

<http://paps-jp.org>